

FAO Newsletter

2007年12月
Vol. 21



今月の統計

最大漁獲可能量以上
に利用されている
海面漁業資源
2006年 77%

発行：(社)国際農林業協働協会(JAICAF) www.jaicaf.or.jp 〒107-0052 東京都港区赤坂8-10-39 赤坂KSAビル3階 TEL：03-5772-7880 Email：fao@jaicaf.or.jp

Contents

目次

- 小麦価格が過去最高値を更新
- ブルータンク、アフリカ豚コレラなどの感染拡大に対する取り組みを
- ヨーロッパにも広がる鳥インフルエンザ
- 「食料への権利」を改めて訴える
- 新たな水平線を切り開くFAO漁業統計
- 食育で栄養失調を克服、健康を維持
- 独立外部評価報告へのFAOの反応
- FAOディフ事務局長が来日
- 国内外の来訪者にFAO活動をPR
- イベントに出展しFAOの活動を紹介
- 講演会「国際農業研究協力と日本」

食料事情

Food Situation



小麦価格が過去最高値を更新 LIFDCの輸入額は昨年の高水準値からさらに14%増



FAO/224320-Thullier

▲世界の穀物在庫率は25年来の最低値を記録した

FAOは、今年6月から急上昇を続けていた小麦の国際価格が、世界的な供給の減少と在庫率の低下および高まる需要などの要因を受け9月に歴史的最高値に達したことを、最新レポート

「Crop Prospects and Food Situation（穀物見通しと食料事情）」で明らかにしました。低所得食料不足国（LIFDC）では、輸出価格や輸送費の高騰がパンをはじめとする主要食料の価格上昇を促し、一部の地域で社会不安を引き起こしています。LIFDCの穀物輸入額は2007/08年度には280億ドルに達するとされ、前年の14%増となる見込みです。これに伴い、世界の穀物在庫量は1,400万トン減少の1億4,300万トンに落ち込み、過去25年間の最低値を記録する見通しです。一方、米国やブラジル、メキシコなどのトウモロコシ主要生産国では収穫量の増加が見込まれていますが、引き続きバイオ産業からの高需要により、市場価格は昨年に比べ高値で推移しています。（10/5、ローマ）

※詳細は季刊誌「世界の農林水産—FAOニュース—」2007年冬号に掲載

関連ウェブページ

Read the full report: www.fao.org/docrep/010/ah873e/ah873e00.htm
 FAO Global Information and Early Warning System: www.fao.org/gIEWS
 Crop Prospects and Food Situation: www.fao.org/gIEWS/english/cpfs

畜産

Livestock



ブルータンク、アフリカ豚コレラなどの感染拡大に対する取り組みを

最近、イギリスでブルータンク・ウイルスが発見され、また、グルジアで感染が拡大しているアフリカ豚コレラがアルメニアでも発見されるなど、越境性家畜伝染病がこれまで感染例のなかった地域へ広がっています。

ブルータンク・ウイルスは、吸血害虫を介して反芻動物に感染し、特に羊で病状が重くなることが特徴で、南アフリカ共和国で最初に発見された後、ヨーロッパへと広がりました。吸血害虫は低温でも生き延びることから、感染拡大が危惧されています。（10/8、ローマ）

また、熱帯地域の感染症であるアフリカ豚コレラにより、グルジアではこれまでに6万8,000頭を超える豚が死亡しています。これは、汚染された食肉などが不適切に廃棄されたことに

よりウイルスが持ち込まれたことが原因と考えられています。グルジアでは豚の飼育が重要な収入源となっていますが、その豚の多くが街頭を自由に行き来しており、アルメニアへの感染拡大もその結果とみられます。（10/3、ローマ）

関連ウェブページ

Bluetongue: www.fao.org/ag/againfo/subjects/en/health/diseases-cards/bluetongue.html
 Bluetongue in Europe: www.fao.org/docs/eims/upload/213041/EW_europe_sept06.pdf
 African Swine Fever: www.fao.org/ag/againfo/programmes/en/empres/disease_asf.asp

ヨーロッパにも広がる鳥インフルエンザ

8月にドイツにおいて健康なアヒルからH5N1ウイルスが検出されたことから、ヨーロッパではアヒルやガチョウから家きん類への感染拡大が危惧されています。特に黒海周辺には、2,000

万羽の家きんを飼育するウクライナや、400万羽のアヒルとそのほぼ同数のガチョウが生息するドナウ川デルタを有するルーマニアといった国々があり、鳥インフルエンザに苦しむアジア諸国と変わらない数の鳥類が生息しています。加えて、シベリアなどから多数の鳥類が飛来する越冬地であり、地中海などの地域へ飛

ぶ渡り鳥の中継地ともなっていることから、アヒルやガチョウからの感染も念頭に置いて、緊急に警戒態勢を整えることが必要とされています。(10/25、ローマ)

関連ウェブページ

Avian influenza: www.fao.org/avianflu/en/

世界食料デー

World Food Day



「食料への権利」を改めて訴える



FAO/Ami Vitale

▲すべての人は「食料への権利」を実現するための資源と手段を持つ

「現在、世界には全人口を養うだけの食料が存在しているにもかかわらず、いまだに8億5,400万人が空腹のまま床に就いてい

ます」。10月16日にローマで行われた「世界食料デー」記念式典で、FAO事務局長ジャック・ディウフはこのように述べ、今年のテーマである「食料への権利」の実現を呼びかけました。「食料への権利」は1948年に「世界人権宣言」において初めて言及されましたが、その後の権利強化への動きは遅々としたものでした。しかし10年前の「世界食料サミット」で各国が権利実現の誓約を交わした結果、ブラジルなど権利を定着させ

飢餓を緩和することに成功した国も出てきています。「食料への権利」の実現は、道徳的義務や経済的投資である以前に、基本的人権の実現であると、FAOは訴えています。(10/16、ローマ)

ディウフ事務局長は、10月18日にニューヨークの国連本部で行われた同記念式典においても、「食料への権利」の実現を改めて訴えるとともに、2008年の「国際ポテト年」に向け、世界の食料安全保障に対してジャガイモの持つ重要性を強調しました。世界の四大食用作物の一つであるジャガイモは、世界各地で7,000年以上にわたって主食として消費されており、その半分が開発途上国で生産されています。「国際ポテト年」は、飢餓人口の削減を目標にするミレニアム開発目標を再確認する良い機会になると期待されています。(10/18、ニューヨーク/ローマ)

関連ウェブページ

World Food Day website: www.fao.org/wfd2007/
 About the Right to Food: www.fao.org/righttofood/
 UN Special Rapporteur on the Right to Food: www.righttofood.org/
 Press release: More than 150 countries to mark World Food Day: www.fao.org/newsroom/en/news/2007/1000677/
 UN Secretary-General's message on World Food Day: www.un.org/News/Press/docs/2007/sgsm11211.doc.htm
 International Year of the Potato: www.potato2008.org/

漁業

Fishery



新たな水平線を切り開くFAO漁業統計

世界で最も古く大規模な漁業統計であるFAOの「漁業統計年報」が、10月に第100号を迎えました。60年以上に及び漁業関係データの収集によって積み上げられた、他では得ることのできない情報は、政策提言や経営の基盤を作ってきました。FAOの漁業情報・統計部門のチーフ、Richard Graingerはインタビューに答え、「漁業統計は、ただ単に魚の数を数えたものではありません。魚介類の種類や個体数、捕獲量や生産地域といった情報を集めることで、これらの資源に食料と収入を頼って生活をしている何千万という人々を支えることにつながっている

のです」と述べています。中でも世界の大半の漁業従事者を抱える途上国では、飢餓や栄養不良の問題に向き合う面でも漁業が大きな役割を担っています。200ヵ国以上から報告されるデータをより信頼性のあるものとするために、水産物の国際分類の統一や、専門家派遣の拡大など、改良への努力が常に行われています。(10/5、ローマ)

※本書はFAO寄託図書館で閲覧可



▲「FAO漁業統計年報」2005年

関連ウェブページ

Fisheries statistics from FAO: www.fao.org/fi/website/FIRetrieveAction.do?dom=topic&fid=16003
 Yearbooks of fisheries statistics: summary tables: ftp.fao.org/fi/stat/summary/default.htm
 FAO's Strategy for Improving Information on Status and Trends in Capture Fisheries: www.fao.org/DOCREP/006/Y4859T/Y4859T00.HTM
 Press release: New project to improve information on trends in world fisheries: www.fao.org/newsroom/en/news/2005/102905/



食育で栄養失調を克服、健康を維持 FAO、小学校向け栄養指導ガイドを作成



FAO/16019/Giuseppe Bizzari

FAOは、このたび発行した小学校向けの栄養指導ガイドの中で、子どもたちを対象に

▲子どもの健康と発育には食事の質が大きく影響する

栄養の偏らない健康的な食生活について教育することが、栄養失調や食習慣に起因する慢性的な病気の回避に最も効果的な方法の一つであることを強調しました。特に子どもの発育にとって、食事は量だけでなく質が大切であるということは軽視されがちです。食べるという行為は単に生命を維持するためのものではなく、文化的・社会的環境の中で経験として学んでいくものであり、そのために栄養教育が一層重要となってきます。肥満や糖尿病、高血圧、心臓疾患などは先進国に限りません。世界に160億人いる肥満者のうち3分の2は低・中所得国に住んでおり、その割合は経済移行国で特に大きいとされています。

グローバル化と経済発展がもたらした新しい食生活やライフスタイルが、貧困と栄養不良に苦しむ途上国でも影響を与えています。(10/9、ローマ)

関連ウェブページ

Nutrition Education in Primary Schools - Planning Guide: www.fao.org/docrep/009/a0333e/a0333e00.htm

独立外部評価報告へのFAOの反応 変革を行う意思を表明

FAOは10月に発表された独立外部評価(IEE)の報告を受け、同機関の62年にわたる歴史における重要な転換期とし、早期に複数の改善策を導入することによって評価内容に添えていく姿勢を示しました。今後2050年までに人口が50%増加すると予測されている中、耕作可能地や水資源の減少、気象変動などの問題に対し、効率的かつ効果的に政策提言を行えるような機関になるべく、戦略的枠組みの再構築や資本の有効利用、経営体制の改善といった変革を行う意思を表明しました。11月の総会において加盟国による承認が得られ次第、改善項目に対する早期行動計画を検討する委員会を設置する予定です。(10/29、ローマ)

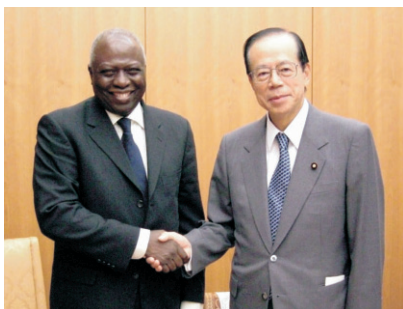
関連ウェブページ

Management Response "In-Principle": [ftp.fao.org/docrep/fao/meeting/012/k0794e.pdf](ftp://ftp.fao.org/docrep/fao/meeting/012/k0794e.pdf)



FAOディウフ事務局長が来日

11月5-7日、FAO事務局長ジャック・ディウフが来日しました。福田内閣総理大臣、若林農林水産大臣、小池外務大臣政務官、南川環境省地球環境局長など政府要人を表敬訪問して意見交換をしたほか、宮田全国農業協同組合中央会(JA全中)会長と会談し、今後の更なる協力関係について話し合いました。また、NHK BS「きょうの世界」からインタビュー取材を受け、「世界食料サミット目標」および「国連ミレニアム開発目標」実現への取り組みや世界の関心が高いバイオエネルギーの食料需給への影響、バイオエネルギーにおける中立な国際会議の必要性とFAOの役割について、見解を述べました。



FAO/LOUA

▲福田首相を表敬するディウフ事務局長

国内外の来訪者にFAO活動をPR

FAO日本事務所では様々な機会を利用して、国内外からの来訪者に対して世界の食料農業事情やFAOの活動についてPRを行っています。

10月23日には日本大学国際交流学科が主催した平和構築をテーマとした「国連デー」記念行事において、約300名の学生・市民を対象に国安副代表が記念講演を行ったのちパネルディスカッションに参加しました。また、11月10日に開催された「国際協力キャリアフェア」においては、国際協力分野への参加・就職を希望している700名以上の若者を対象に、ブース展示と事業・キャリア紹介を行いました。

一方、10月31日にはFAO日本事務所を来訪したJICA集団研修「かんがい排水事業の持続的管理」の研修生、主にアフリカから参加している9名に対して、国安副代表が「World Agriculture and FAO」と題する講義を行い、世界の食料事情への理解を求めるとともに、それらの課題に取り組むFAOの

活動への支援を訴えました。

関連ウェブページ

国際協力キャリアフェア2007 : international-careerfair2007.com/

イベントに出展しFAOの活動を紹介

「国連デー」にあたる10月24日、日本にある国連機関共催のイベントが行われました。会場となったUNハウス前広場では、実際の難民キャンプのテントなどが設置された「模擬UNキャンプ」



▲鳥インフルエンザ用の防護服を着て子どもたちに活動を説明する国安副代表

FAO/LOUA

が用意され、FAO日本事務所もブースを出展して活動を紹介しました。また10月27-28日に横浜市主催の「横浜国際フェスタ」や、11月2-3日に東京ビックサイトで行われた「実りのフェスティバル」にもFAO日本事務所がブースを出展し、パネル展示や資料説明を行いながら、FAOの活動を紹介しました。

関連ウェブページ

国連デー : www.unu.edu/jp/unday/

実りのフェスティバル : <http://www.affskk.jp/sub3.htm>

講演会「国際農業研究協力と日本」

11月21日、第5回食料・農業協力講演会が行われました(JAICAF、政策研共催)。今回は国際トウモロコシ・コムギ改良センター(CIMMIT)岩永勝所長を講師に迎え、「国際農業研究協力と日本」をテーマに、気候変動やエネルギー需要の拡大といった世界を取り巻く環境の変化に対して日本が取るべき国際戦略と、CIMMITの活動についてお話をいただきました。

関連ウェブページ

2007年食料・農業協力講演会 : www.jaicaf.or.jp/news/lecture_2007.htm

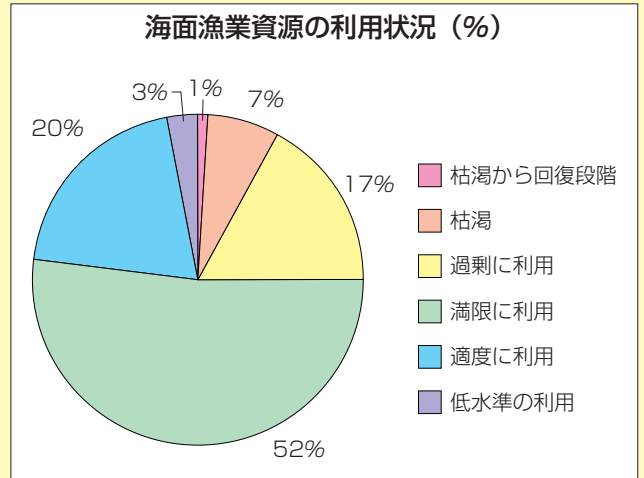
12月の活動予定

※青字は日本国内

- 12/1 World HIV/AIDS Day
- 12/5 国際穀物フォーラム「アジア：食料供給は需要に追いつくか」
パネリスト：FAO日本事務所横山所長(東京・三田共用会議所)
- 12/6 連続公開講演会「世界の食料問題に取り組むFAO」講師：FAO日本事務所国安副代表(神奈川・明治学院大学)
- 12/7 講演会「FAOの食料見通しFood Outlook2007年11月版—農産物の高価格と乱高下—」講師：FAO経済社会局貿易市場部アバシアン氏(東京・政策研ケ関分室)FAO日本事務所、政策研共催
- 12/12 講演会「2007年FAO食料農業白書—発展途上国における農業に対する環境支払い—」講師：農水省作山国際交渉官(政策研ケ関分室)FAO日本事務所、政策研共催
- 12/17 「お米日本—コンテストinしずおか」(静岡県コンベンションアーツセンター)FAO日本事務所後援
- 12/19 第6回食料・農業協力講演会「食料をめぐる国際情勢とその将来」講師：農水省塩川参事官(政策研ケ関分室)JAICAF、政策研共催

今月の統計をよむ

海面漁業資源の利用状況 (%)



図は、海面漁業資源の利用状況を示したものです。「枯渇からの回復段階」「枯渇」「過剰に利用」「満限に利用」を足すと77%に達します。すなわち、資源の77%は最大漁獲可能量まで、あるいはそれを超えて利用されているということです。「適度に利用」と「低水準の利用」の合計が資源に余裕のあるものに当たりますが、この割合は1975年には40%から2004年には23%にまで減少しています。

海面漁業は、全体として、漁獲量が近年ほぼ横ばいで推移する中で、資源状況が悪化してきており、より効果的な資源管理が必要となっています。

(FAO日本事務所長 横山 光弘)

テレフード募金にご協力をお願いします

募金は、アジアやアフリカの食料不足の地域で、貧困農民の食料増産を支援する「テレフード・プロジェクト」に使用されます。

郵便振替口座

00140-1-29732

(FAO飢餓撲滅草の根募金)

※振替手数料無料。ご寄付は税金控除の対象となります



FAO寄託図書館のご案内

- 所在地：神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1
パシフィック横浜 横浜国際協力センター5階 FAO日本事務所内
- 利用予約および問い合わせ先：
TEL:045-226-3148/E-mail:fao-library@jaicaf.or.jp
- 開館時間：平日10：00～12：30/13：30～17：00

ニュースレターの配付について

本紙は、季刊誌「世界の農林水産—FAOニュース—」とセットでJAICAFの会員にお送りしています。ご希望の方はJAICAFまでお申し込みください。

※ニュースレターは指定場所でも配布しています